

木村九蔵の生涯と競進社の変遷

和暦	西暦	主な出来事
弘化2年	1845	木村九蔵、上野国緑埜郡高山村（現在の群馬県藤岡市高山）に生まれる。高山寅三の五男で、幼名は巳之助。
安政4年	1857	巳之助（13歳）、貰った蚕の卵を父の隠居所二階で孵化させ蚕の飼育を行い、良質の繭を取り周囲を驚かす。
元治元年	1864	巳之助（20歳）、武蔵国児玉郡新宿村（現神川町）の木村弥次右衛門の娘しまと結婚。
慶応3年	1867	巳之助（23歳）、新宿村で新居を構え、名前を木村九蔵と改め自立。
明治5年	1872	木村九蔵（28歳）、養蚕飼育の研究成果を「一派温暖育」と名付け発表。
明治10年	1877	九蔵（33歳）、同志を糾合して養蚕改良競進組を結成。推されて組長となる。
明治13年	1880	九蔵（36歳）、蚕種の品種改良の結果、「白玉新撰」を産み出し世に送る。
明治14年	1881	高山社・競進社、群馬県鬼石町で両社共催の共進会を開催。
明治16年	1883	競進組、児玉郡沼上村（現在の美里町沼上）で第1回共進会を開催。
明治17年	1884	競進組、養蚕改良競進社に改称。九蔵が社長となる。競進社蚕業伝習所を児玉町に開設。産業教育に着手。群馬県でも高山組が養蚕改良高山社となり、九蔵の実兄高山長五郎が社長となる。
明治19年	1886	高山社社長高山長五郎没。56歳。 茨城県西茨城郡南川村に初の支部となる競進社第1支部西茨城養蚕伝習所ができる。
明治22年	1889	政府、パリ万博における人造絹糸調査及びイタリヤ・フランス両国の蚕糸業取調のため木村九蔵（45歳）らをヨーロッパに派遣。
明治24年	1891	九蔵（47歳）、日本蚕種貯蔵株式会社を設立し、本庄町に日本初の蚕種貯蔵庫を建設し社長となる。
明治27年	1894	九蔵（50歳）、競進社伝習所内に蚕室を新築。この蚕室は後に模範蚕室と呼ばれる。
明治30年	1897	競進社養蚕伝習所、競進社蚕業講究所に改称。
明治31年	1898	木村九蔵没。54歳。後任に浦部良太郎が競進社社長及び講究所所長となる。
明治32年	1899	実業学校令公布に伴い、競進社蚕業学校となる。「競進社養蚕改良組合立」として発足。武蔵二の宮の金鑽神社（神川町）に九蔵の頌徳碑が建設される。
大正5年	1916	木村九蔵（二代）、競進社社長及び蚕業学校の校長となる。
大正8年	1919	甲種実業学校となる。
大正14年	1925	校名を競進社実業学校と改称。
昭和12年	1937	児玉農学校と改称。戦後の昭和23年（1948）に児玉農業高等学校と改称。
昭和45年	1970	競進社模範蚕室、埼玉県指定文化財（建造物）となる。
昭和55年	1980	競進社模範蚕室、老朽化により解体修理が行われ、翌年3月に修理が完了。
昭和57年	1982	埼玉県、児玉町に競進社模範蚕室の管理を移管。
平成18年	2006	本庄市と児玉町との合併により、本庄市競進社模範蚕室となる。
平成19年	2007	競進社模範蚕室、経済産業省の近代化産業遺産に認定。

